

スクラムマスター・アジャイルコーチ 年収調査レポート#2

2025年版



著者

フォンテーヌ グレゴリ



agora x

目次

 はじめに.....	3
 回答者に関する基本情報.....	4
 年収の平均値、中央値、十分位数.....	5
 SMとACの年収に関する主な気づき	6
1. スクラムマスター・アジャイルコーチの年収には大きな開きがある.....	6
2. 兼務しない方が収入が多い.....	6
3. スクラムマスター・アジャイルコーチの年収は、1年または2年の経験ごとにステップアップする.....	6
4. 上級レベルの認定資格を持つ方が収入が多い.....	6
5. 「アジャイルコーチ」は、「スクラムマスター」よりも56%ほど多く稼いでいる.....	7
6. スクラムマスター・アジャイルコーチが最も稼いでいる業界は、保険、金融、ヘルスケア/製薬である.....	7
7. フリーランスのスクラムマスター・アジャイルコーチについて.....	7
 2023・24年から2025年にかけて見られた主な動向と変化	8
 詳細結果	9
1. 役職.....	9
2. 最終学歴.....	9
3. 性別.....	10
4. 年齢.....	10
5. スクラムマスター・アジャイルコーチとしての経験.....	11
6. 国籍.....	11
7. 雇用主.....	12
8. 支援するチーム・組織の状況.....	12
9. 業界.....	13
10. 前職.....	13
11. 兼務.....	14
12. 認定資格.....	14
 この調査の著者について	16
フォンテーヌ グレゴリ(合同会社アゴラックス).....	16

はじめに

本調査は、日本国内におけるアジャイルコーチとスクラムマスターの年収の傾向を調査することで、アジャイルコーチとスクラムマスターの特徴や今後のキャリアを検討するひとつの材料となることを目的に実施した。グローバルでは同様の調査が実施されているが、グローバルの傾向と日本国内傾向が必ずしも同様であるとは限らないため、日本国内に限定した調査を実施することとした。この調査自体も「実験」であり、実験によりどのような事実が浮き彫りになるか、どのような反響があるかも検査し、適応させていくものである。

本調査は、2025年5月にオンラインにて実施した。有効回答者数は63名である。回答いただいた皆様に改めて御礼申し上げる。

なお、今回の調査では、2023/2024年の調査と異なり、プロダクトオーナーの方にもご回答をお願いしました。しかし、プロダクトオーナーについては有効回答数が4件にとどまったため、今回は分析対象から除外する判断をいたしました。ご協力いただいた皆様には感謝するとともに、今回分析に至らなかったことをお詫び申し上げます。

回答者に関する基本情報

回答者の84%が男性、14%が女性、2%がノンバイナリーである。

・

回答者の年齢層は幅広い。回答者の10%は29歳以下。50歳以上の回答者も19.0%いる。年齢の中央値はおよそ38歳。

・

回答者の平均年収は11,079,91円。標準偏差は4,907,470円である。

・

回答者の49%はスクラムマスター、51%はアジャイルコーチを担っている。

・

回答者の60%は、スクラムマスターやアジャイルコーチになる以前はソフトウェアエンジニア/開発者であった。

・

最も多かった4つの業界：ソフトウェア/インターネット(54%)、メーカー/製造業(46%)、情報通信(27%)、ヘルスケア/製薬(19%)。

なお、回答者は複数の業界を選択できた。

・

回答者の29%がスクラムマスターまたはアジャイルコーチとして7年以上の経験がある。46%は3年から6年の経験がある。残りの25%は経験年数が2年未満である。

・

今年は63件の回答をいただきました(2023/2024年の75件と比較)。

💰 年収の平均値、中央値、十分位数





SMとACの年収に関する主な気づき

1. スクラムマスター・アジャイルコーチの年収には大きな開きがある

スクラムマスター・アジャイルコーチが若手からシニアに至るまで幅広い年齢層によって遂行されている役割であるという事実が浮き彫りになった。回答者の年齢は29歳から57歳までであった。これはまた、スクラムマスター・アジャイルコーチが、チームや組織に提供するサービスの内容や認識される価値が大きく異なることを示唆している。

年代による年収の開きは、20代と50代で平均で2倍以上であった。しかしながら、どの年代においても、他の役割と比較すると年収は高い傾向になるのではないかと推察される（調査対象外のため）。

2. 兼務しない方が収入が多い

44%のスクラムマスター・アジャイルコーチは兼務をしている。

兼務していないスクラムマスター・アジャイルコーチ（残りの56%）は、兼務している人より16%収入が多いという結果であった。

3. スクラムマスター・アジャイルコーチの年収は、1年または2年の経験ごとにステップアップする

スクラムマスター・アジャイルコーチの年収は、経験年数を増すごとに増加する傾向があることがわかった。特に5年以上の経験を積むことで大きくステップアップにつながっている傾向が見られた。ただし、今回の調査では単に経験を積めば年収が上昇するのか、実績を評価されることで年収が上昇するのかまではわからなかった（調査範囲外のため）。

4. 上級レベルの認定資格を持つ方が収入が多い

例えば、PSM III (Scrum.org)、CSP-SM (Scrum Alliance)、ICP-ACC など、より高度な資格を取得しているスクラムマスター・アジャイルコーチは、資格を持っていない人やエントリーレベルの資格しか持っていない人よりも収入が多いという結果であった。

上記1., 2., 3., 4.をまとめると、スクラムマスター・アジャイルコーチとしての能力を開発し、発揮することに重点を置く人ほど、収入が高くなることが推察される。

5. 「アジャイルコーチ」は、「スクラムマスター」よりも**56%**ほど多く稼いでいる

スクラムマスターよりアジャイルコーチとしての職責に担っている方が年収も多くなる傾向がわかった。

このスクラムマスターとアジャイルコーチの年収格差は、スクラムマスターの58%が4年以下の経験であるのに対し、アジャイルコーチの68%が5年以上の経験であることから、経験の差によって説明できる部分もある。

また、スクラムマスターは、自社内雇用が多く、アジャイルコーチは外部人材、業務委託が多い傾向があり、それらが反映されたのかもしれない。また、スクラムマスターはスクラムチーム内の責任のため、スクラムチームとしてあるいは担うプロダクトに対する報酬のキャパシティが限られているが、アジャイルコーチは、単一のチームのみならず、複数チーム、複数チームでのプロダクト開発、組織への変革を担うことで報酬の幅がより広いのではないかと推察される。

6. スクラムマスター・アジャイルコーチが最も稼いでいる業界は、保険、金融、ヘルスケア/製薬である

保険業、金融業、ヘルスケア・製薬業でスクラムマスター・アジャイルコーチの年収が高い傾向が見られた。これは、それら業界でのアジャイルの浸透度合いが高いからかもしれないし、これからアジャイルが重要視される現れなのかもしれない。

7. フリーランスのスクラムマスター・アジャイルコーチについて

フリーランスは、スクラムマスターやアジャイルコーチの中では少数派(6件・10%)である。彼らの平均年収は18,250,000円で、他の人よりも77%も高い。しかし、フリーランスの回答者数が少なかったし、フリーランスの経験、年齢、国籍、または認定資格がそれぞれ違うため、明確なパターンが見られているわけではない。したがって、この調査からだけでは、フリーランスになることが必ずしも年収アップにつながるとは結論づけられない。



2023・24年から2025年にかけて見られた主な動向と変化

平均年収は5.4%増加し、中央値は1.0%の増加となった。

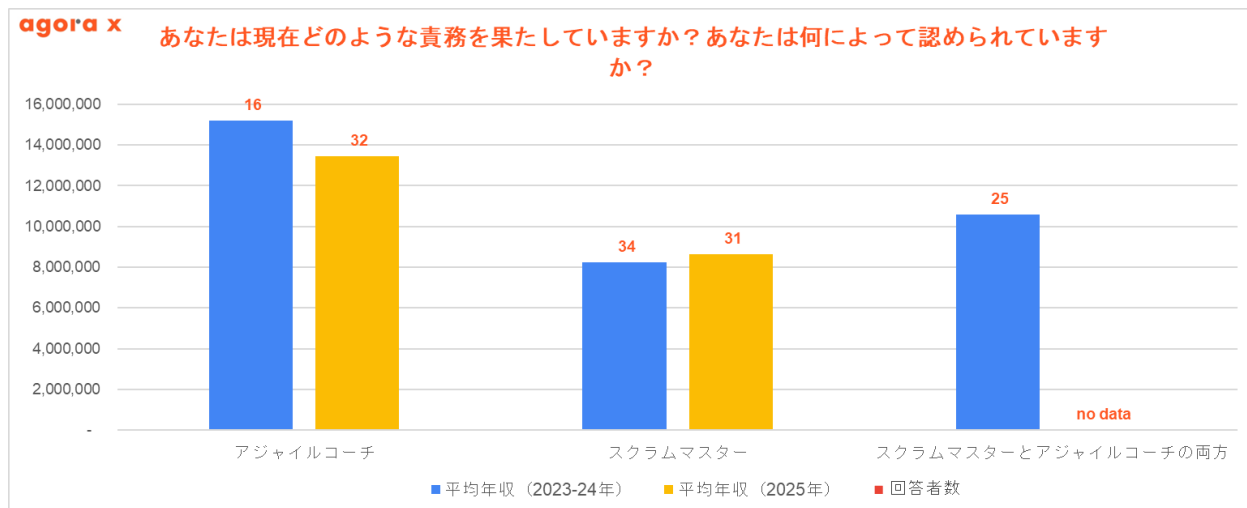
—

平均年収の上昇が特に顕著に見られたのは、以下の3つのグループ：

- 実務経験2年未満のスクラムマスター／アジャイルコーチ
「ジュニア」SM/ACである彼らのほとんどは、2023/2024年の最初の調査の回答者ではなかった。。今回の調査では、2023/2024年時点の同等の層と比較して、年収が10.8%高くなっている。
- フリーランスのスクラムマスター／アジャイルコーチ
平均年収が26.5%増加した。
- ヘルスケア、保険、金融機関、エネルギー業界のスクラムマスター／アジャイルコーチ
これらの業界では年収が上昇している。一方、その他の業界では年収は横ばい、もしくはやや減少傾向が見られた。

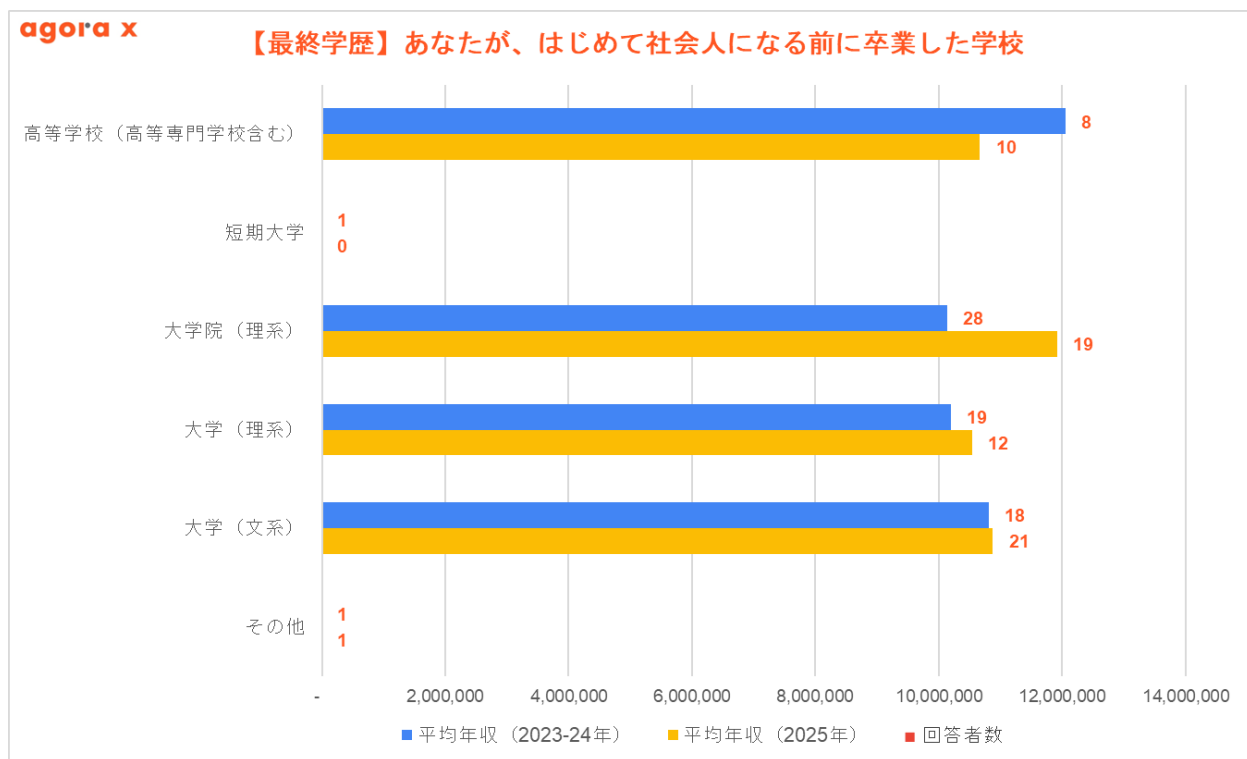
🔍 詳細結果

1. 役職

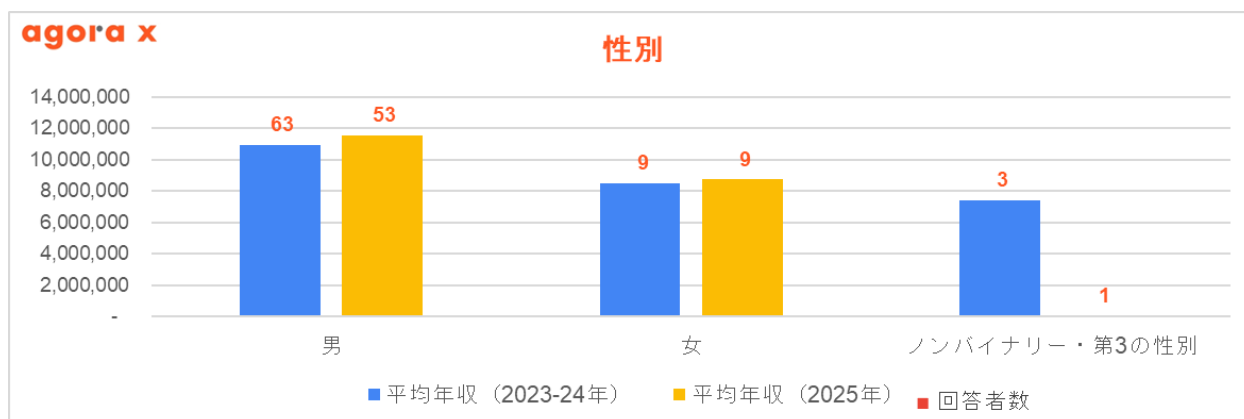


*2025年の調査では、「スクラムマスターとアジャイルコーチの両方」という選択肢を削除しました。

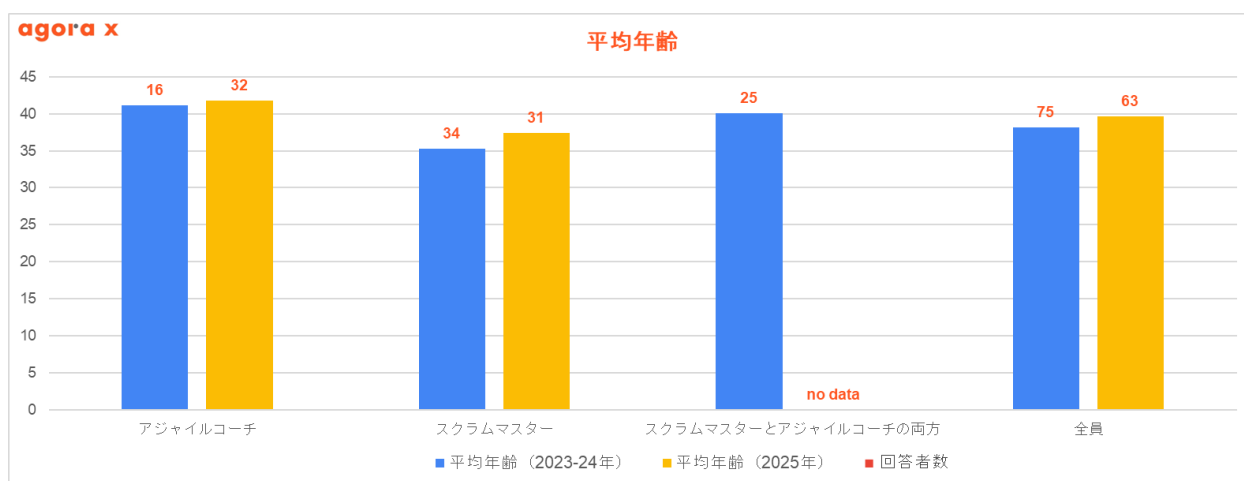
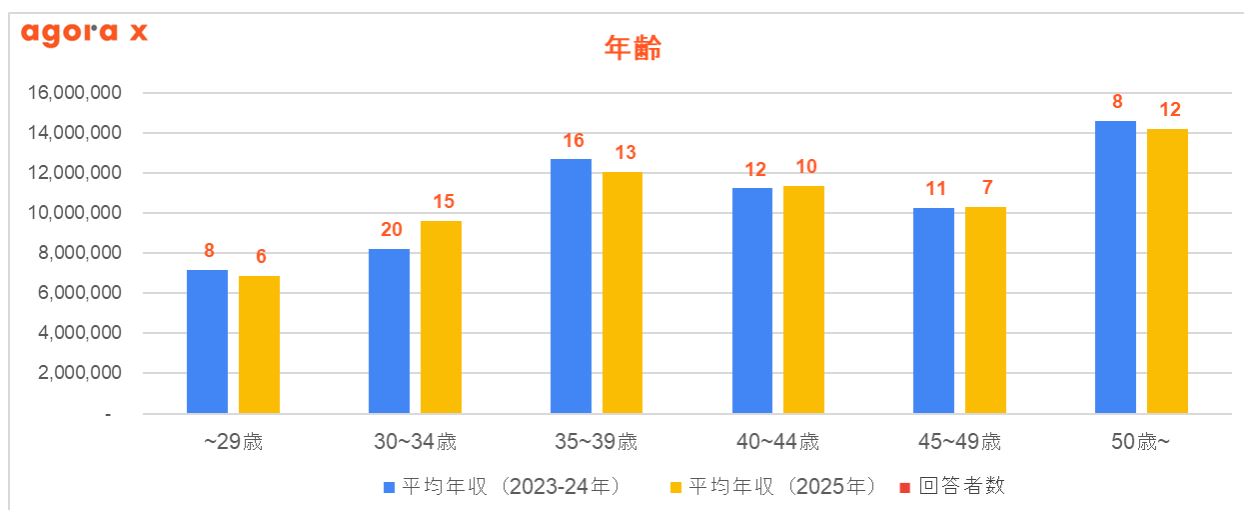
2. 最終学歴



3. 性別

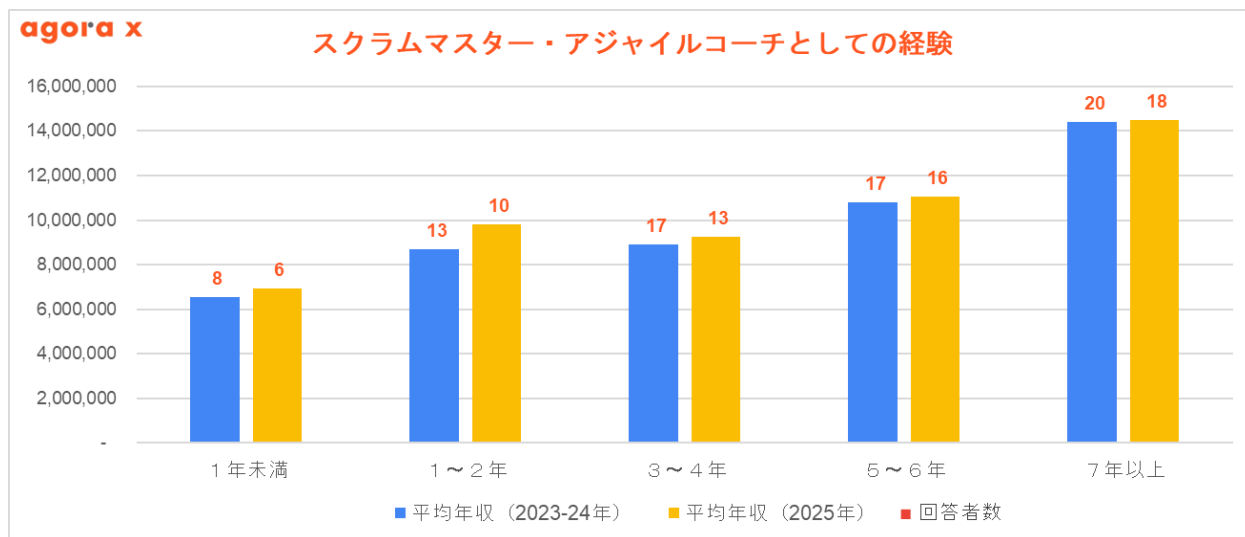


4. 年齢

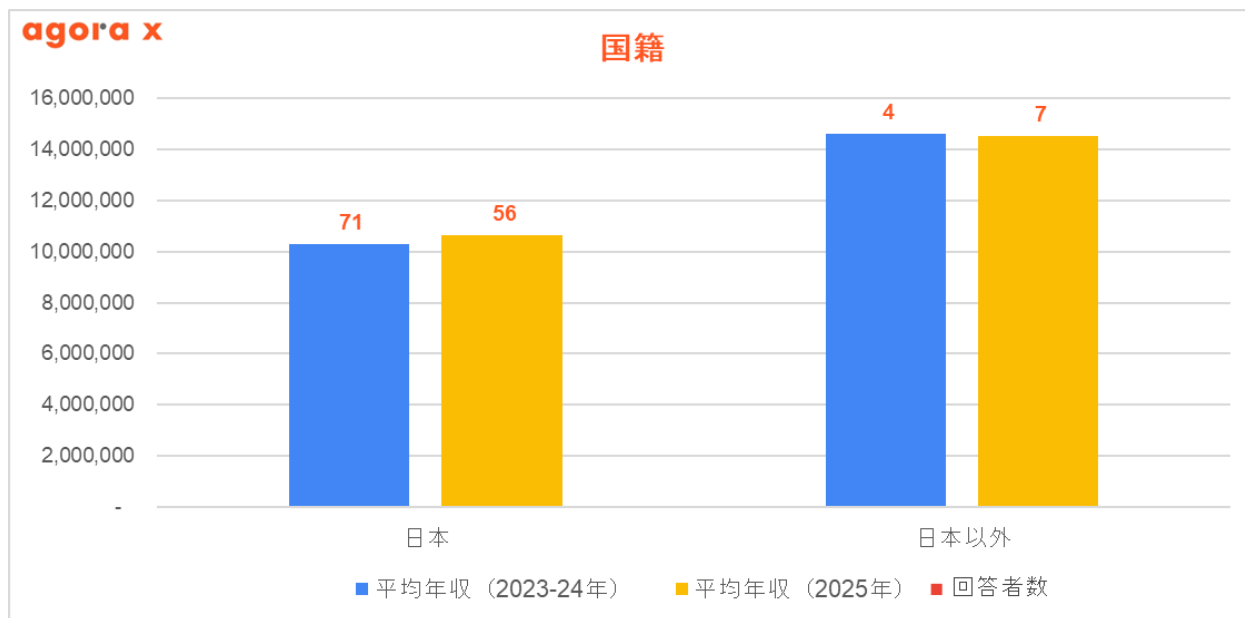


*2025年の調査では、「スクラムマスターとアジャイルコーチの両方」という選択肢を削除しました。

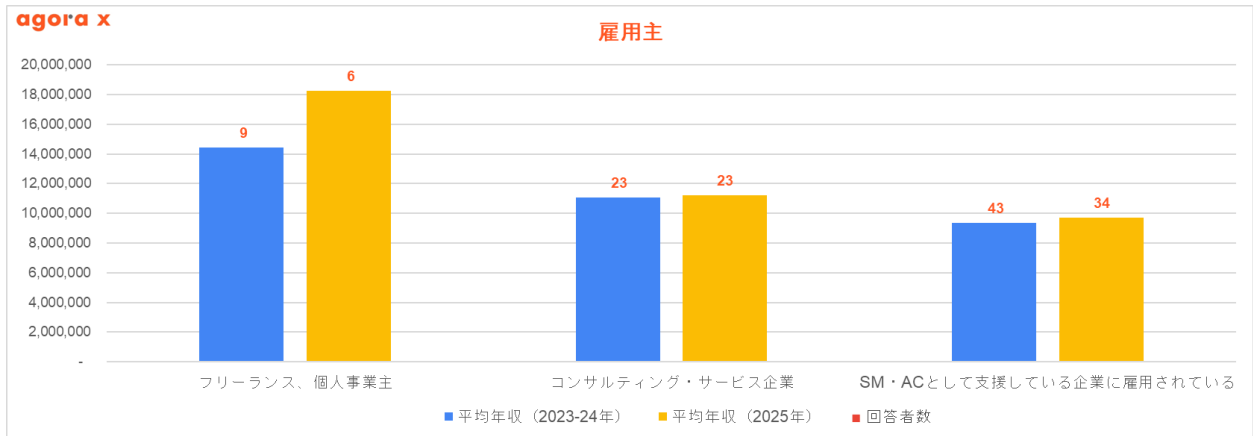
5. スクラムマスター・アジャイルコーチとしての経験



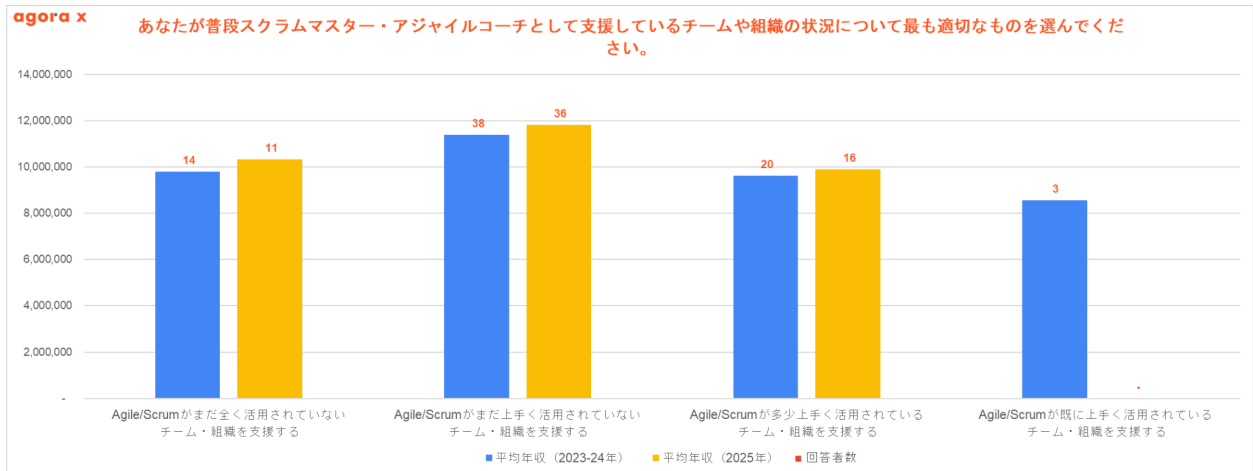
6. 国籍



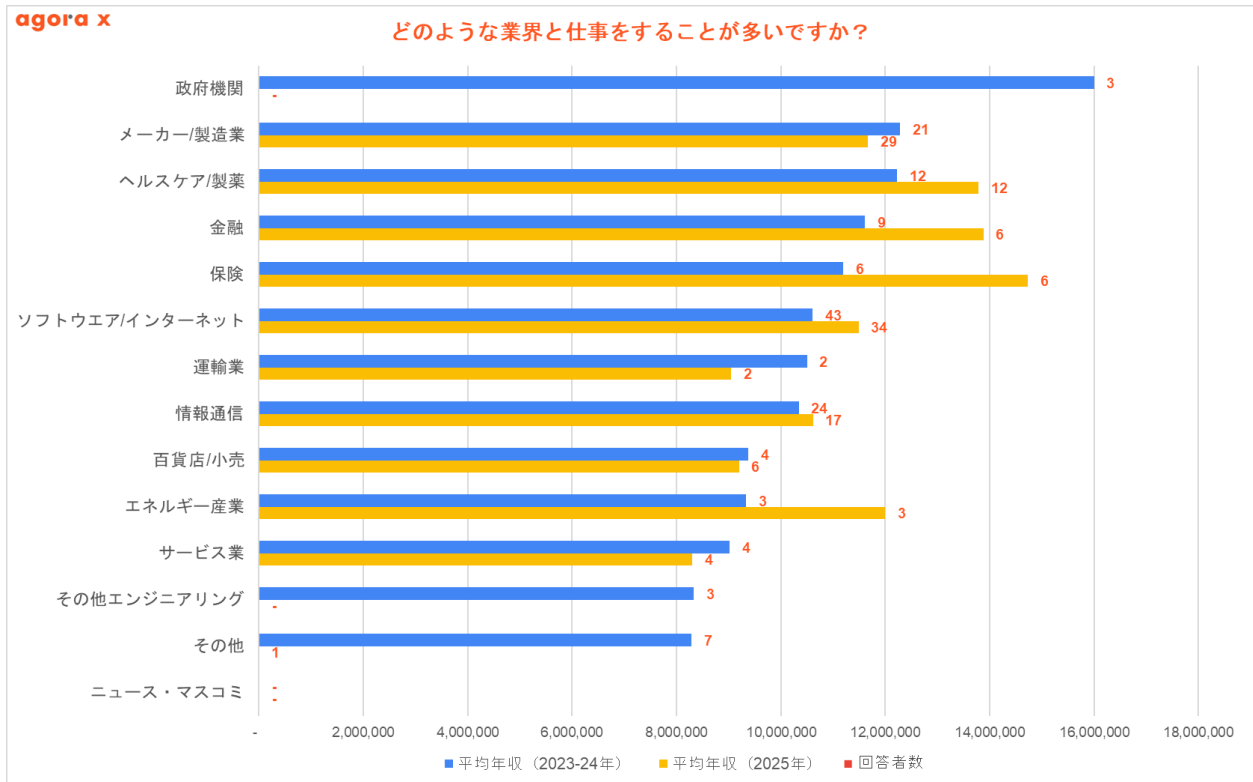
7. 雇用主



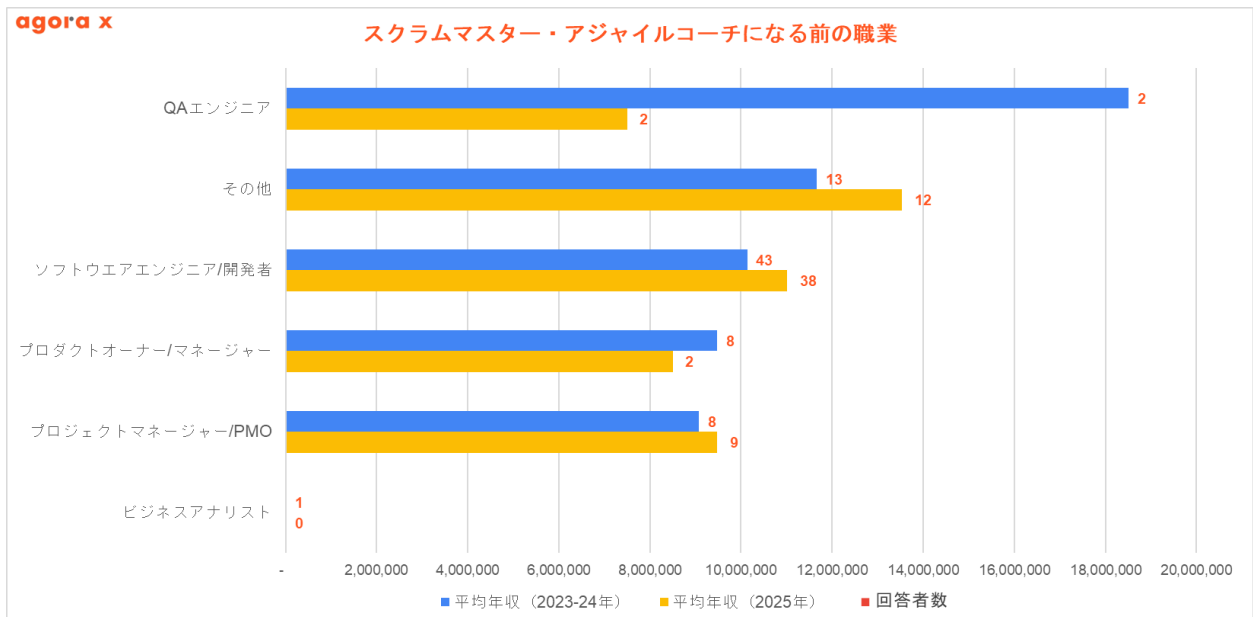
8. 支援するチーム・組織の状況



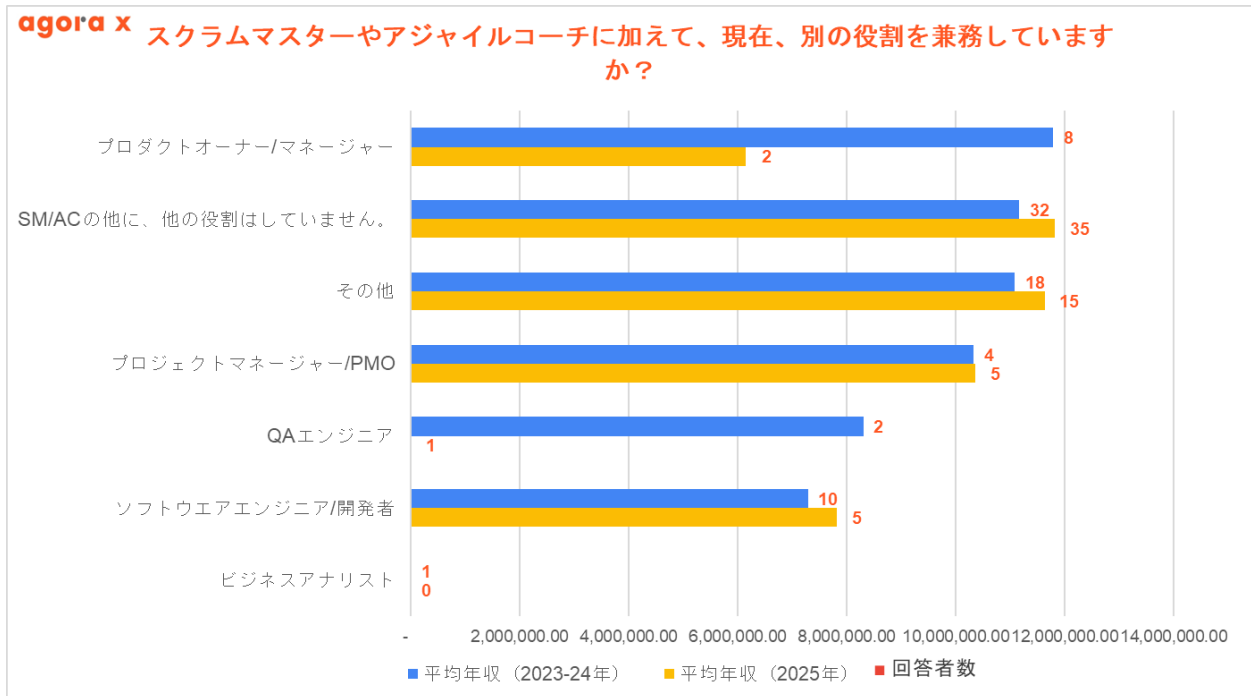
9. 業界



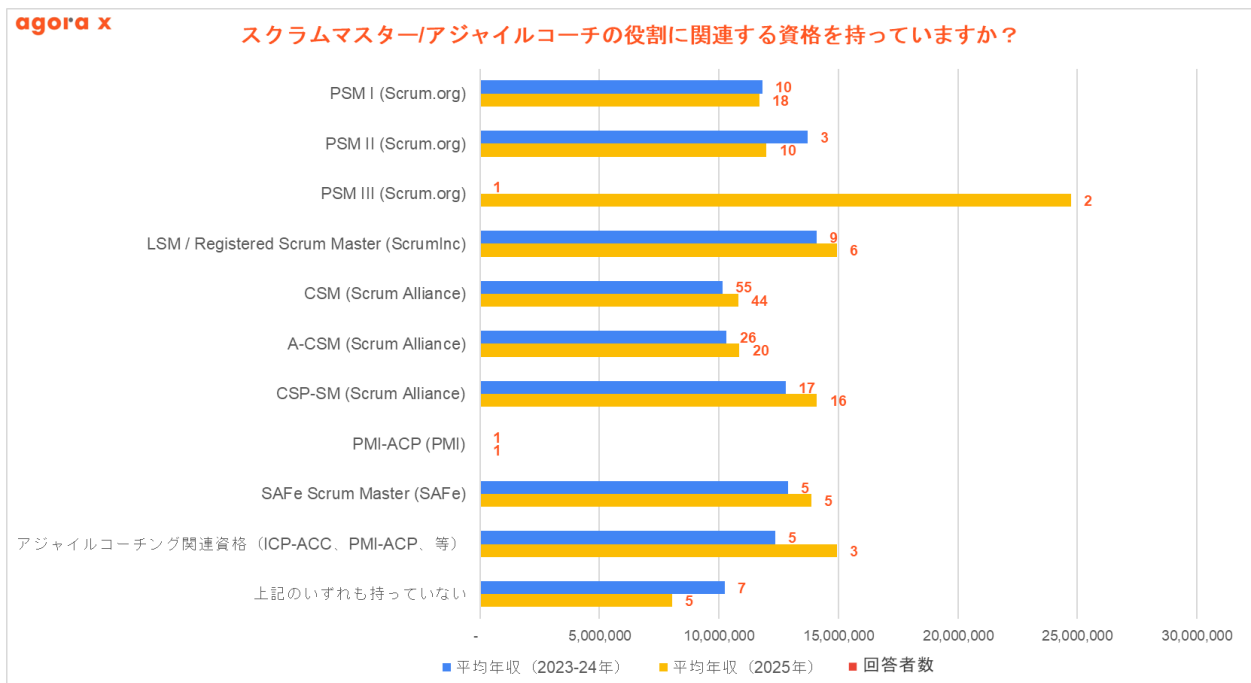
10. 前職



11. 兼務



12. 認定資格





この調査の著者について

フォンテーヌ グレゴリ(合同会社アゴラックス)



自己紹介

私、フォンテーヌ・グレゴリ(Fontaine Gregory)は、アゴラックスの代表取締役です。世界中で約350人のプロフェッショナルスクラムトレーナー(PST)の1人であり、アジャイルコーチ、コンサルタント、スクラムマスター、プロダクトオーナーとして活動しています。これまで数多くのチームのスクラムマスターまたはプロダクトオーナーとして、改善、目標達成、そして顧客が求める製品の提供を支援してきました。また、コンサルタントおよびアジャイルコーチとして、主に保険業界や製薬業界の大手企業を中心に、組織、働き方、プロダクト開発、思考の変革を支援しています。日本語を話す初代のプロフェッショナルスクラムトレーナーでもあります。

会社概要: 合同会社アゴラックス

アゴラックスは、企業向けのアジャイル導入支援・プロダクト開発コンサルティングを中心に活動しています。組織変革、チームビルディング、プロダクトマネジメント、スクラム実践のサポートなどを通じて、クライアントのビジネス価値向上を支援しています。また、Scrum.orgの認定トレーニングをはじめとする各種研修プログラムを提供しており、チームと個人の知識・スキル向上をサポートしています。さらに、個人に対しては、キャリアやスキルの成長を目的とした能力評価&コーチングサービスも行っています。

連絡先

<https://www.agorax.jp/>

contact@agorax.jp